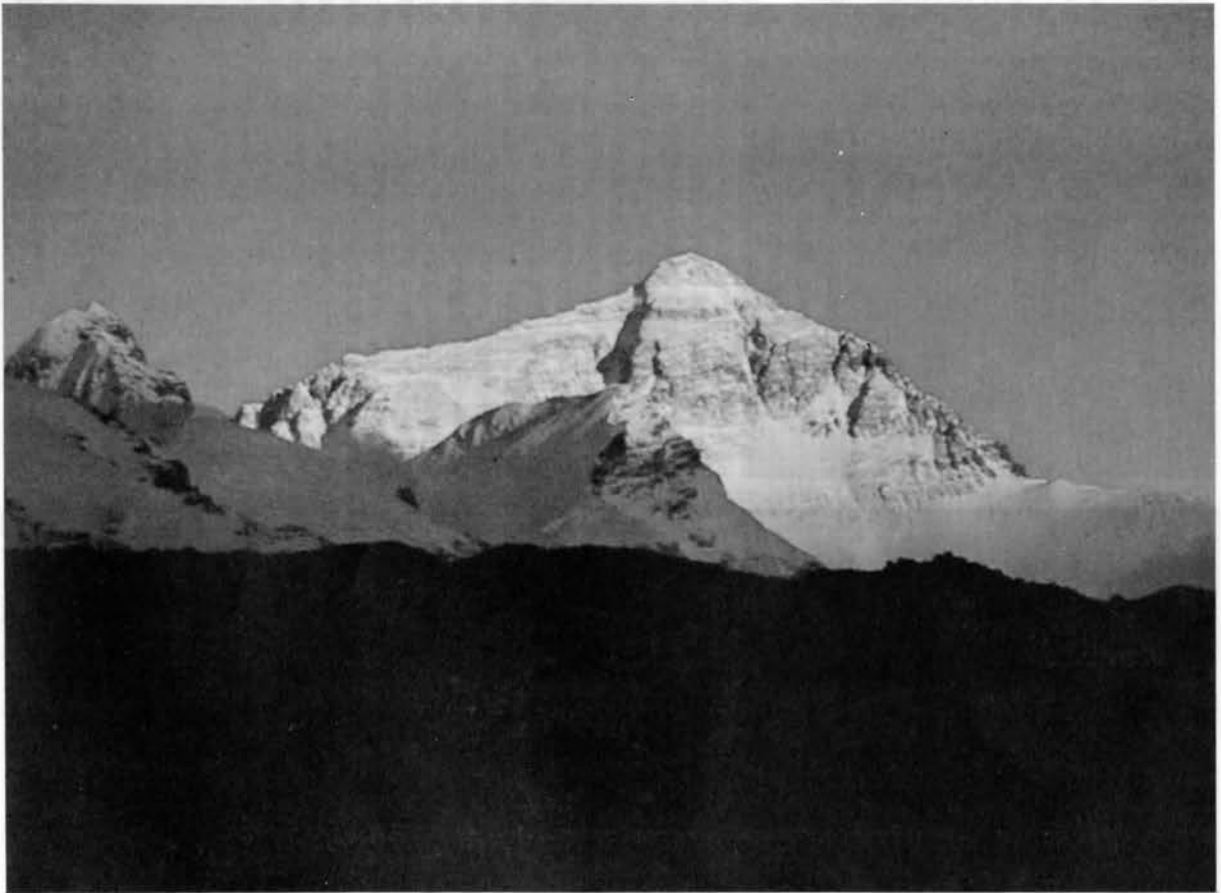


山と博物館

第33巻 第7号 1988年7月25日 大町山岳博物館

特集 ヒマラヤ展 7/16~9/15



チョモランマ(エベレスト) 撮影 松原 繁

「ヒマラヤ展」の開催

松田 雄一

世界の屋根といわれるヒマラヤ山脈の八〇〇〇m峰は、一九五六年(昭和三二)のマナスル初登頂の後、三〇年の歳月をかけてすべての峰々が日本人の足で登られ、日本人が開拓した記録が数多く残されています。

また、今年、中国・日本・ネパール三国友好登山が、世界の最高峰エベレスト峰(中国名「チョモランマ」、ネパール名「サガルマタ」)を舞台に実施され、五月五日、世界初の交差縦走と同時に、山頂からのテレビ生中継に成功した記念すべき年でもあります。

大町山岳博物館では、この記念すべき機会をとらえ、「ヒマラヤ展」を企画しました。

この特別展は、「八〇〇〇m峰と日本登山隊」および「中国・日本・ネパール チョモランマ/サガルマタ友好登山隊」のサブタイトルをもっています。展示内容は日本人による八〇〇〇m峰一四座初登頂で残された貴重な記録を一堂に集め、あわせて、中国・日本・ネパールの三国で実施した三国友好登山の関係資料を紹介しています。

このような展覧会は今まで催されたことがなく、初めての試みとして企画されたものです。

展示されている貴重な資料は、日本山岳会をはじめとする全国の各山岳会、ならびに三国友好登山の共催者として成功を収めた読売新聞社・日本テレビ放送網株式会社の各位のご協力により提供いただくことができました。ここに改めて関係各位の深いご理解と、ご支援ご協力に心から御礼申し上げます。

(社団法人 日本山岳会常任評議委員)
大町山岳博物館ヒマラヤ展企画委員

白き聖地

—ヒマラヤ八〇〇〇m峰

への挑戦—

丸山 喜康

はじめに

ヒマラヤとは、サンスクリット語の「ヒマ(雪)」「アラヤ(住処)」。この二つの語が結合したものである。つまりヒマラヤは「雪の住処」を意味する。ヒマラヤの範囲は、一般的に西のインダス川から東のブラマプトラ川の大屈曲点まで東西およそ二四〇〇km、南北の幅は約二〇〇—三〇〇kmとなる。北限はインダス川上流とブラマプトラ川上流を結ぶ線、南はシワレック山脈がガンジス平原に消える所とされているが、このヒマラヤの北西部に位置するカラコルム山脈も含め、「世界の屋根」と呼ぶにふさわしい大山脈を形成しているのである。この大山脈には八〇〇〇mを超える峰が十四座あり、最高峰エベレスト(チョモランマ・サガルマタ)を盟主と神々の御座として君臨している。

一、エベレスト (八八四八m)
ネパールと中国チベット自治区との境に位置しヒマラヤ及びクニンブ山群の核心部にある世界の最高峰。チベット名チョモランマは「世界の母神」、ネパール名サガルマタは「世界の頂上」の意味をもっている。エベレストという名は、前インド測量局長官ジョージ・エベレストの功績を記念しての命名だった。
初登頂は一九五三年のイギリス隊(J・ハント隊長)である。今までのチベット側北東麓からの挑戦をあきらめ、ネパール側から南東麓を攻撃した。険悪なアイスファールを突破してウエスタン・クムに前進基地を作り、サウス・コルより南峰経由にて五月二十八日午前十一時半、ヒラリーとテンジンの2人がついにエベレスト八八四八mの世界最高の頂上に人類最初の足跡をした。「もはやこれ以上高い場所は、地球上どこにもなかった。ヒマラヤの名だたる峰々もすべて足下にくずくまり、空だけが果しなくひろがるだけであった」
一方、中国も世界の最高峰チョモランマ(チベット名の地元としての威信を賭けて一九六〇年に登山隊を送り込む。ロンブク水河未端よりノースコル経由で北東麓より夜間登攀を続け、五月二十五日午前四時二十分に登頂した。一九六三年のアメリカ隊は未登の西麓より登頂し、南東麓を下るといふ縦走を完成させたのである。一九七〇年には日本山岳会隊(松方三郎隊長)が南西壁に挑んだ。しかし八〇五〇mにて敗退、一方南東麓隊は五月十一日登頂に成功する。世界の最高峰に立った最初の日本人は松浦輝夫、植村直己の二人で、「わたしと植村隊員は、抱き合ひ、息のつまる程背中をたたき合った。植村のやつれた顔からは涙がとまどなく流れていた」
その後一九七三年、第二次RCC隊(水野祥太郎隊長)は、南西壁へ向かったが敗退、南東麓から秋として最初の登頂に成功した。
一九七五年には日本女子隊(久野英子隊長)が登頂に成功、田部井淳子が女性として最初の登頂者となった。
一九七五年にはイギリス隊により南西壁が登られた。また一九八〇年には日本隊が北壁より登頂。同じ年メスナーは北東麓より単独、無酸素で登る。またポーランド隊はエベレストに冬期初登頂に成功というように次々と



二、K2 (八六一一m)
パキスタンと中国の新強ウイグル自治区との境。カラコルムの最高峰。K2という奇妙な名はインド測量局がつけた測量番号であり、Kはカラコルムを意味する。しかし、チベット側では「大きな山」を意味するチョゴリという名で呼ばれている。パルト口水河の奥に五角錐状に尖った峰を孤立している姿は美しき至難の山とされ、登山家たちの挑戦に対するK2の抵抗はまさにすぎまじかった。そのため「非情の山」とも呼ばれたのである。
一九三八年より始まったK2への挑戦は悲劇の連続であった。アメリカ隊は宿命の山として挑戦を繰り返した。しかし、一九五四年七月二十一日午後六時、K2の頂上ついに二人の登山家によって踏まれ「非情の山」も人類のあくなき征服欲の前に屈したのである。初登頂したのはアメリカ隊ではなくアルテイット、デジオ隊長率いる



K2
第二登は一九七七年のインド陸軍隊である。インドの最高峰にもなるこの巨峰への意気込みは強く、外国登山隊の入山を禁止しているシッキム側より入山。五月三十一日、頂上の二m手前に達して旗を立てた。
一九八〇年、日本隊がカンチエンジュンガ氷河に入った。小西政雄隊長以下七人の山学同志会隊である。彼らは三つの雪の棚とロックバンドで区切られている北壁を無酸素・セミアールバイン・スタイルで登頂する。現代のヒマラヤ登山の水準に達した見事な登攀を見せた。
また、日本ヒマラヤ協会の縦走計画、同じく日本山岳会の南峰から中央峰へ主峰への縦走、八〇〇〇mラインよりのハンクグライダー滑空というように、ヒマラヤにおける「新しい波」をもうにかぶった意欲的な挑戦が試みられている。

三、カンチエンジュンガ (八五八六m)
ネパールとインドのシッキム州との境に位置しチベット語で「五つの大きな雪の宝庫」を意味する神聖な山とされている。カンチエンジュンガを神聖視する地元民との「絶頂には立たぬ」との約束により、初登頂以来、今もって真の絶頂は踏まれていないけがれなき聖なる頂である。この巨峰がグーリニンなどからじかに高く仰がれるため、早くから探検家や登山家から目をつけられていた。一九八九年イギリスのフレイッシュフィールドのラウン・ド・カンチエンジュンガ、つまり七週間かけてのカンチ一周の探査行が目玉される。その後ドイツ隊は数回の意欲的な登攀を行おうが、ことごとく敗退する。初登頂は一九五四年、イギリス隊(チャールズ・エバンス隊長)によつて果たされた。ヤルン氷河よりグレート・シエルフ経由にて五月二十五日午後一時、一m半程の雪の凹頂の頂上直下に立つ。最高点はあと一歩の所であったが頂は踏まなかった。

イタリア隊であった。
そして一九八八年、中国・日本・ネパールの三国友好登山隊が入山。ネパール側と中国側から同時に二つの隊が登頂し、国境を越えて反対側に交差縦走するという登山史上初めての試みに成功したのである。また同時に、登山活動を通信衛生を使用して生中継し、家庭の茶の間に世界最高峰チョモランマ・サガルマタの頂、大パノラマ、そして縦走隊員の動きという劇的な瞬間が臨場感をもって伝えられたのである。
世界の最高峰であり、第三の極点。それゆえに、これからも数々の人々が挑戦しつづけるであろうし、永遠のロマンスが繰り返られることであろう。

四、ロイツェ (八五一六m)

ネパールと中国チベット自治区の境。ロイツェという名は「エベレストの南峰」を意味し、サウス・コルをへだててエベレストとあまりにも近接しているがため、忘れられた不遇の巨峰となっている。「南の峰」、それはエベレストの付属の峰とされた名前であることから不幸という他はない。

初登頂はエベレストの第二登をめぐすスイス隊によって行われた。ウエスタン・クウムよりジェネバ・スパイにトラバースし、ロイツェ頂上より五〇〇mの大きなクローアルが落ちていた。ルートはそこにとられた。頂上は細く鋭く尖つて、到底その上には立てなかつた。そこで一m程下の硬い雪をピッケルで削って立ち、初登頂を果たした。

初登頂より二十一年後、西ドイツ隊がロイツェフェーエスの新ルートから第二登。八〇〇〇m十四座の内、こゝなにも第二登の遅れた山はない。

日本隊では一九八三年、カモシカ同人隊(高橋和之隊長)が冬のエベレストをめざしてウエスタン・クウムへ入ったが、その小手調べとしてロイツェ・フェースの初登ルートから登った。十月九日より三次にわたり計八名が登頂に成功している。

五、マカルー (八四六三m)

ネパールとチベット自治区との境。クーンパ山群の東端に位置し、ピラミダルのなまなまとした山姿をしている。初登頂はフランス隊(J・フランコ隊長)で、北西稜のマカルー・ラより、五月十五日からの三回にわたる全員登頂という見事なパーティーで登山をやつてのけた。

その後一九七〇年、日本隊(伊藤洋平隊長)はブラック・ジャンタルムの難関を克服し、未登の東南稜より第一登を果たした。

つづくマカルーへの登攀は、一挙に困難なルートを探めるものへと突き進む。一九七一年、フランス隊は標高差三五〇〇mの岩壁と急峻なナイフリッジの西稜より登頂。一九七五年、ユーゴスラビア隊が南壁。一九七六年、チエコスロバキア隊が南西壁。一九八一年、ポーランドのククチカは、北西稜より単独・無酸素しかも完全なアルパイン・スタイルで登頂。そして、未登の西壁も一九八二年、ポーランド・ブラジル合同隊に征服された。

六、ダウラギリ1峰 (八一六七m)

ネパール中部、ダウラギリ山群の最高峰。このダウラギリの雄姿を、日本さらに世界に伝えたのは河口慧海である。彼はチベットに法を求めて潜入する途中、「莊嚴雄大なる高雪峰ドーラギリ」と、その紀行「西藏旅行記」



ダウラギリ1峰

に記した。

初登頂は一九六〇年のスイス隊(M・アイゼリン隊長)で、十三名の隊員に加えて軽飛行機イエティ号を使用し、五月十三日北東稜より狭く小さな絶頂に立った。

一九七〇年、日本の同志社大学隊(太田徳風隊長)は、秋季としてはチョー・オユーに次ぐ二度目の記録で第二登を果たしたのである。一九七八年のダウラギリは二つの日本隊、イエティ同人隊(雨宮節隊長)と群馬岳連

(田中成幸隊長)が南稜そして南東稜というバリエーションルートの初登に成功した。そして一九八一年には日本秀博信が低圧室に入って高所順応を果たした後、単独・無酸素・アルパイン・スタイルで挑み、六月二日ついに登頂。最初の単独登頂者となった。

その後日本隊は、一九八二年に、難関、北壁(梨ルート)初登。その年の冬には北海道大学隊(安岡荘隊長)が北東コルより雪洞を使用したキャンブ配置により、冬期初登頂を達成した。

七、マナスル (八一六三三m)

ネパール中部、ネパールヒマラヤの中央部。マナスルビマールの最高峰。ピーク29、ヒマルチュリとともにマナスル三山と呼ばれる。

初登頂は一九五六年、横有恒隊長率いる日本山岳会(JAC)隊である。五月九日午前零時三十分、今西隊員とシネルのギャルツェンが登頂。天候は無風快晴。まさに絶好のコンディションでの初登頂だった。二人は日章旗とネパール国旗を結びつけたピッケルを振りかざし、ザイルを結び合ったまま交互に記念写真を撮った。



チョー・オユー

日本人の山マナスルの第二登は一九七一年の日本西壁隊(高橋照隊長)で、ドメン、コトラより北西稜を登り五月十七日頂上に立った。この時、初登時にJAC隊の残したアイスハーケンを持ち帰った。

一九七二年にはオーストラリア隊が南西壁。一九七四年になると女性による初の八〇〇〇m峰登頂が記録される。同人ユングフラウ隊(黒石恒隊長)である。当初予定の東稜を放棄し北東稜の初登ルートより自力で登頂した。

また、一九八一年には旅行会社の公募した異色の隊が合計十五人もの大量登頂に成功。この中には六十二歳という最高齢登頂記録をつつた西ドイツ人ローファラーがいた。ヒマラヤ登山の大衆化が進む中での記録である。初登頂以来日本隊が圧倒的に多いことを見ても「日本人の山・マナスル」と呼ぶことができよう。

八、チョー・オユー (八一〇一m)

ネパール東部と中国チベット自治区の境。クーンパ山群西部。山名はチベット語で「トルコ玉の神」である。長大なゴジュンバ水河源頭に聳える堂々たる巨峰は、五十年代のヒマラヤ八〇〇〇mの黄金時代の華やかなる時に、あまりにもひっそりと初登頂されており、山自体が地味な存在であることとが、あまり目立たない記録となっている。

一九五四年、この山は小規模な登山隊を迎える。当時の登山隊は一国の登山界を結集して組織されるものばかりであったが、オーストリア隊(ヘルベルト・ティッヒ隊長)は、たった三人のプライベートな隊だった。十



ナンガバルバット

月十九日、凍傷に苦しむティッヒ・ヨヒラー・パサンはついに頂上に立ち、小さな十字架を雪の中に置いた。一九六四年には西ドイツ隊が西稜の七六五〇mまでスキーを使って登頂する。

一九八五年、八〇〇〇m峰十四座のうち唯一日本人未踏の頂であったチョー・オユーが登られる。カトマンズクラブ隊(釜沢健隊長)である。四人の少人数で西北西稜を登り、十月三日三隊員が登頂に成功したのである。

一九八七年、カモシカ同人隊(今井通子隊長)は西北西稜をルートに登頂し、高橋和之隊長はパラグライダーで頂上からの滑空に成功した。これは離陸高度の世界記録となる。頂上よりBCまで高度差二五〇〇mをわずかに七分で舞い降りている。

九、ナンガ・バルバット (八二二五m)

パキスタン・カシミール休戦ライン近く。パンジャブ・ヒマラヤに位置する。「裸の山」を意味する山名は、独立峰として孤獨な雄姿をそそりたてさせているところから来ているのか?

「難攻不落の魔の山」「人喰い山」と言われ、ヘルマン・プールの単独初登頂までに三十一人の犠牲者を呑み込んだが、その多数はドイツ人であった。ドイツはこの山を「ドイツ人の山」と呼び、是が非でもドイツ人の手で頂上へと挑戦を繰り返したのである。

一九五三年七月三日午後七時、難攻不落を誇った魔の山もついに人類に登頂を許した。

四つ八ついって斜面を登る男をささえていたのは、ただ鉄の意志だけであった。そしてナンガ・バルバ

ツトの頂にはひとつだけの人影が立ち、チロルの小旗が立てられた。これはドイツ隊ではあったが、登つたのはオーストリアのヘルマン・ブルーだったからである。隊長はヘルマン・ブルー。彼はその後なおこの山に執着し、登山隊を送り込んだ。一九六二年デアミール隊、一九七〇年バルバール隊と異端の山を各ルートから陥落させたのであった。

一九七八年にはメスナーがデアミール隊を単独で登降するという偉業をなした。

一九八三年には十一隊も隊が殺到。その内四隊が日本隊であった。デアミール隊に向かった高山岳連隊は、初登ルートに取り付き、七月三十一日午前四時日本人として初めて頂上に立った。

しかしその後、ナンガ・バルバットは「魔の山」「人喰い山」の異名を持ち続けている。パンジャブ・ヒマラヤに孤高を誇る「異端の巨峰」である。

一〇、アンナブルナー峰 (八〇九二m)

ネパールの中部。アンナブルナ山群の最高峰。山名は「豊穣の女神」を意味する。

一九五〇年六月三日。それは人類にとつて記念すべき日であった。フランス人、エルゾングとラシュナルによるアンナブルナー峰の初登頂は、まさに人間の踏んだ最初の八〇〇〇m峰だったのである。フランス隊(モーリス・エルゾング隊長)は、まずダウラギリを偵察し、困難と見るとすぐアンナブルナに転進した。北面の北氷河をルートに取り、モンスーンの驟来と戦いながら六月三日に頂上に登りついたのである。

一九七〇年にはイギリス隊(クリス・ポニントン隊長)が、壁の時代の到来をつける登攀を南壁で行なった。壁の高度差は三六〇〇m、しかも酸欠の薄い八〇〇〇mでの困難きわまる壁からの登頂である。一九七九年五月八日、静岡岳連隊(八木公信隊長)は北面の初登ルートの左を登るオランダルートより登頂。また一九八一年にはイエティ同隊(吉野寛隊長)が、唯一南壁に残された中央岩稜の登攀に成功したのだ。

一九八七年には群馬岳連隊(八木原園明隊長)が、標高差三五〇〇mと圧倒的な高さを誇る南壁(イギリスルート)より越冬期初登頂に成功した。ヒマラヤ冬の壁の時代の幕開けを告げる快挙であった。

一一、ガツシャーブルム1峰 (八〇六八m)

中国の新疆ウイグル自治区とパキスタンの境、ウルドク氷河と南ガツシャーブルム氷河との間の主稜上にありバルトロ氷河上からは僅かに頂が見えるだけである。一九八二年W・M・コンウェイは、ヒドン・ピーク(隠



れた峰」と名付けた。

一九五四年のK2の初登頂以後カラコルムの山々はにわかには脚光を浴び一九五八年にはカラコルム・ラッシュンがおこった。ガツシャーブルム1峰もその年ついに初登頂された。登つたのはアメリカ隊(ニコラ・クリンチ隊長)である。南東稜より主峰と南峰のゴルへ出て頂後へ出ると、頂上まではずっと雪の登攀だった。快晴の中頂上からはカラコルムの主たる山々とハーベラーのペアが北西壁より遠攻無酸欠にて登頂。それまでのヒマラヤ登山の常識を破つた画期的な成功を取めた。

一九八一年、日本の長野県山岳協会隊が、初登ルートの南東稜より隊員二名が登頂した。

一九八二年のフランススキー隊は、登頂後頂上から標高差三〇〇〇mを合計九時間にわたって滑りつづけるという記録をつくつたのである。

一二、プロトド・ピーク (八〇四七m)

中国の新疆ウイグル自治区とパキスタンとの境。カラコルム・バルトロ山脈に位置する。英語で「幅のある峰」を意味する山名は、一九九二年にカラコルム探検をしたマーティン・コンウェイの命名である。

一九五七年、マルクス・シュムクを隊長とする四人のオーストリア隊がこの山に入った。彼らはゴドウィン・オースチン氷河から西壁ルートを登り、主峰と中央峰のゴルへ出る西壁ルートをアルバイン・スタイルにて、全員登頂を果たした。ヘルマン・ブルーが頂上に立ったのは午後七時。谷はもう闇につつまれ、高い山だけが真赤

な落日に輝いている中で印象的な登頂だった。

第二登は日本の愛知学院大学隊(湯浅道男隊長)で、中央ルンゼを登る西壁ルートより登頂する。その後は、アルバイン連攻登山・主峰と中央峰のゴルよりのスキー滑降・メスナーの一年間に八〇〇〇m峰三座登頂のハット・トリック・女性二人だけによる登頂というように、まるでアルプスの山のように続々と登られ始めた。

一三、ガツシャーブルム2峰 (八〇三五m)

中国の新疆ウイグル自治区とパキスタンの境。グレイ・シャール・カラコルム、バルトロ山脈に位置しバルトロ氷河の最奥にある。山名はバルティ語で「すばらしい峰」の意がある。ピラミッド形の端正な頂上を持つ八〇〇〇mのジャイアンツであるにもかかわらず、性格の地味さでは最右翼の存在であろう。

初登頂は一九五六年のオーストリア隊(フリッツ・モラウエック隊長)である。南ガツシャーブルム氷河より南西稜を登り、七月七日に小さな雪の台地に人の背丈程もある二つの尖岩の立つ頂上に立ち、初登頂に成功した。その後この山が比較的容易に登れることがわかって、各国の登山隊が挑戦し始める。一九七八年アメリカのG・プロシグは南東稜より単独登頂に成功。つづきオーストリア隊は全員登頂を達成する。

一九八〇年には日本のベルニナ山岳会隊(佐藤英雄隊長)が挑戦。南西稜より南東稜へ出る初登ルートより登頂する。

また一九八三年にはポーランド人ペア、クルチカとククチカが二人だけのアルバイン・スタイルで、ガツシャーブルム・ラより東稜を登り登頂、南西稜を下るといふ縦走登山を完成させた。

一四、シヤンバマ (八〇二二m)

中国チベット自治区南西部。ネパール名「ゴザインタシ」。チベット語でシヤンバマは「草地の山」の意だといふ。完全に中国(チベット)領内のため、ヒマラヤ黄金時代にも外国登山隊は近づくこともできず、最後の初登頂したのは一九六四年まで登頂できなかった。

初登頂したのは登山隊員一九五人という驚異的な大編成で挑んだ中国隊である。ルートは北側の氷河から北東稜を登るもので、五月二日、五日程の頂上に記録の紙片を埋め、毛沢東の画像を置いた。そして十五年後、中国も外国隊に門戸を解放することとなった。第一陣は西ドイツ隊(マンフレート・アバライン隊長)で初登ルートより第二登を果たす。

一九八一年には日本の女子登山クラブ隊(田部井淳子隊長)が姿を現わした。彼女らも初登ルートの北東稜を

登り、日中国旗を雪の中に突き刺したのだ。また一九八二年のイギリス隊は、困難な氷雪の壁である南西壁を登り南東稜を下山するというアルバイン・スタイルで特筆すべき登頂を果たした。

同年、低圧室で独特の高所トレーニングをつみ速攻登山を実践する日本の高山研究所隊(原真隊長)が四日間登頂するという速攻ぶりを見た。

不遇な山シヤンバマも、今後は新ルートの開拓が大きな課題になってくる。

おわりに

今や、八〇〇〇mのジャイアンツ十四座はことごとく登りつくされた。これからは細分化された、より困難なルート・無酸素・冬期・単独速攻というように、「神々の峰」をめぐる様々な試みが行われることであろう。ヒマラヤ登山史においては日本の登山隊の業績を無視しては語れないものがある。全ヒマラヤ地域に入山した登山隊の数は、おそらく日本が最も多いことからもそうである。

ということになる。これは全ヒマラヤの記録が日本にあるということになる。その情報の源が博物館という名において総て集取されることを望むものである。

(参考文献)

- 『外国山名辞典』三省堂
 - 『八千メートルの履歷書』みなみかずお著 森林書房
 - 『岩と雪』(山岳年鑑)
 - (ヒマラヤ展企画委員、日本山岳会)
- ※掲載写真はすべて、日本人として初登頂に成功した遠征隊及び隊員の皆さまから提供いただきました。

脱字がありました

先月号IP本文20行目、「各地 派遣」は「各地へ派遣」の誤りです。

山と博物館第33巻第7号

一九八八年七月二十五日発行
 発行所 長野県大町市 TEL 0261-2211
 大町山岳博物館
 印刷所 長野県大町市 印刷部
 大米タイムス印刷部
 定価 年額 一、二〇〇円(送料共)(切手不可)
 郵便振替口座番号 長野四一三二一九三